

令和4年度 第1回徳島県いじめ問題等対策審議会議事録

日 時 令和4年6月2日（木）午後2時から午後4時
場 所 県庁10階大会議室
出席者 14名（1名欠席）
会議概要

1 開会

- (1) 教育委員会あいさつ
- (2) 委嘱状交付
- (3) 自己紹介
- (4) 会長及び副会長選出
- (5) 会長及び副会長あいさつ

2 議事

- (1) 徳島県いじめ問題等対策審議会について
- (2) いじめ問題等における課題
- (3) その他

3 閉会

1 開会

- (4) 会長及び副会長選出

推薦により、会長に葛西委員、副会長に池田委員が選出された。

- (5) 会長及び副会長あいさつ

会 長 会長として不安なところもあるが、みなさんの御協力をよろしくお願ひします。いじめ問題について教育長からも説明があり、いじめの件数は減っているような気がするが、臨床の現場から見ると、いろいろな形のいじめが出てきており、いじめの対象が変わったり、まだまだ大きないじめがたくさんあると思う。審議会でいじめがなくなるような取組ができたらと思う。

副会長 鳴門教育大学では徳島県のいじめ問題に寄与するため、いじめ防止支援機構を設けている。その中で徳島のいじめ防止に関わりたいと思い、今回推薦していただき、ありがたい。しっかり努めさせていただく。

2 議事

- (1) 徳島県いじめ問題等対策審議会について

事務局配付資料の説明

- (2) いじめ問題等における課題

会 長 委員の方々が考えているいじめ問題の本県の課題について、ディスカッションできたらと思う。それを基に事務局からの説明どおり、検討部会の

調査研究テーマの参考にさせていただきたい。

委員 地域におけるいじめ防止の取組について、地域の方による巡視、「おはよう」の声かけ等が大切である。ささやかな取組であるが、「大人は見ているよ」というメッセージになる。地域の人ができることが大切である。いじめは秘密裏に行われ、一朝一夕には解決できない。「大人が見ているよ」というメッセージや「声かけ」をすることが大切。学校でも対応が難しい場合もあるので地域の方がどのように関わるか。信号の立哨当番等であれば、専門家でなくても気軽にできるのではないか。そういうことから始めたらどうか。

会長 地域でできることはあるか。スクールロイヤーの対応としていじめの様態の変化等はあるか。

委員 いじめに関しては学校の先生などからスマートフォン等の機器を使ったものについて説明してほしいと言われることがあるが、スマートフォンは道具の一つに過ぎない。いじめの構造は変わっていない。方法は変わっているが根っこにあるのは気持ちの問題。いじめられる子、いじめる子、周りで見ている子、それぞれの人々がどう取組かというコーディネートをしているが、対応についてあまり変わっていない。

自殺予防協会では、子どもが電話相談するのはハードルが高いため、SNS相談等も行っている。いじめの問題は一朝一夕には解決できない。そういう意味では、助けてと言っても良いというメッセージを出すのも良いことである。

北九州で活動するある団体が、各学校を回り「自殺する必要はないんだ」「助けて」と言っているんだと、演劇で訴えている。それを観て、とても勇気づけられた。いろんな手段でいじめは良くないという問題提起はできる。

会長 いじめの構図は変わらず、手段が変わっている。

委員 コロナ禍で、児童生徒に疲れが出ていると感じる。学校に行っても挨拶に元気がないように感じる。みんながストレスを感じており、ストレスを発散しているだけのような、からかいやいじめもある。被害にあう子に対してもストレスを発散することや解消法を具体的に示す必要があると思う。

会長 子どもも大人もストレスが多い。ちょっとしたことでイライラしている。発散できていない。

委員 いじめの問題はなくなることはないのかも知れない。しかし減らそうとする努力は必要で、子どもだけでなく大人の世界にもいじめはある。大人側もいじめをしないようにし、子どもに対して、「いじめはいけない」と話すことが大切。助けてもらっても良いという意見があるが、助けが出せるような社会システムを設けていただけたらと思う。他の方法を探すことも大切。

先生にいじめがあると言える状況、周囲から大丈夫と声をかける雰囲気を作っていかなければいけない。

県外では、いじめ問題があったとき、先生が「知らなかった」。という事例もあった。

そのようなことが、徳島県ではないよう教育委員会に願っている。

会長 本人が直接言わなくてもアンケートから出てくる。

委員 地域におけるいじめ等の対策を含め、学校教育の中でいじめに対する未然防止、早期発見、対処方法を考えなければならない。特に未然防止の部分で何ができるのか。道徳教育や人権教育の充実が必要である。

携帯電話での誹謗・中傷が高校や中学校でも多く、小学校でもゼロではないと聞いている。心配していることは、SNSを利用して多人数対一人で児童生徒を追い詰める事例もあるということ。

週一回の道徳教育にも様々な視点があるが、いじめに特化した時間を取り、教育を行ってほしいと思う。

また、日本人として心を育てるために美しい言葉の使用が大切である。

「言葉遣いは心遣い」と言われるように、美しい言葉を使うことが大切である。生活の基本となる道徳教育の一部が未然防止につながる。

会長 コミュニケーションに絵文字のみということが多い。しかし、SNSも悪いことばかりではなく、悪いことばかり言われると、持つことがダメとなっても困る。セクシュアルマイノリティの方々が自分と同じセクシュアリティの人と出会う機会はSNSが多く、自分だけが一人じゃない。徳島県にいるんだということでSNSを介して出会えたりということもある。SNSの危険を察知すること、上手に使うことが大切。

委員 いじめを認知して、重大性、緊急性に応じて連携しながら、少年補導職員、スクールサポーターの活動を行っている。

令和3年度、警察へのいじめ相談は42件、前年度より16件増加している。相談の内訳は、本人からの相談は8件、保護者からの相談は27件、相談内容は、「悪口」「からかい」など。昨年は犯罪として事案対応したいいじめはない。今後も関係機関と緊密に連携しながらいじめ事案の早期発見に努めていく。相談者は保護者が多く、周囲の人が早く気づいてあげるこ

とが大切だ。

会 長 4 2 件相談があったのは多いと思う。
委 員 同じ方から何回か相談を受けることがある。

委 員 地域の寛容さがどうか、いじめの考えが極悪というイメージがある場合もあり、加害者も被害者も防衛的になっている。いじめが認知されても必ず解決に結びつかない。早期発見，早期対応で，学校，地域も含めて寛容さが必要。地域や学校でコミュニティーを作ることが大きい。マクロの視点で早期発見につなげる機会があれば，この会からも発信してほしい。

学校も組織的対応が課題になっており，いじめの定義，認知はセーフティネットなので，「からかい」だけでなく，良かれと思いやったことが相手の受け取り方によっては「いじめというふうに見ましよう」という，重大事態に陥らないよう，そういう意味でなかなか対応を漏れなくすることは，先生たちも非常に困難な感じがする。学校が組織的に対応するのは，中身をどうするかも大事だが，働き方改革について，先生の環境を整えることが，いじめの取組を効果的にするのではないか。マクロの視点で具体的な取組や情報がこの会から発信されれば，ありがたい。

会 長 先生たちも余裕が必要。

委 員 認知件数を報告するだけでも大変な労力で，見つけたら学校で取り上げ，どんな軽微なものも保護者に連絡するとなると，非常に対応も大変なものになる。全体的な見直し，カリキュラム等も含め間接的な面からもそう思う。

委 員 スクールソーシャルワーカーとして不登校の児童生徒と関わる中で，いじめの事案の加害者も被害者もいる。それぞれに話を聴き，双方の支援をしていくことが必要。

コロナ禍の今，子どもたちが集まり難くなっている。生きにくさを感じる子どもたちが，今まで繋がっていた機関と繋がりを持ち難くなったり，繋がりを諦めざるを得ないケースもある。そこには，家庭的な背景も関係している場合もある。その背景にも着目しながら，繋がり再構築を考えていく必要があると感じている。

会 長 子どもたちが集まって何かをすることが少なくなっている。

委 員 中学校でも生徒のストレスが増加していると感じる。多くの生徒がスマホを持っており，持っていないくても親のスマホを借りたりして，SNSをしている。SNSでは，自分のことが書き込まれているんじゃないかとい

う不安を感じている生徒もいる。ストレスを抱え神経をすり減らしているのではないか。情報とどう付き合っていくかが大切で、子どもからの発信を行っていくことも重要。道徳教育の中でもスマホをどのように使っていくかということも大切。

また、生徒がいじめをしても、いじめと認識していないことがあり、子どもは、いじめがダメだと分かっているが、いじめている子どももストレスがあったり、満たされていないことがあり、それぞれの思いに寄り添ってサポートしていくことが大切。

学校現場ではかなり教員も時間との闘いで、時間が足りない。時間を取り休み時間の巡視等で「見ているよ」というメッセージを伝えていくこともできる。

自分も遅くまで仕事をするすることがあり、自分の子どもと関わる時間が平日は2時間、我が子はどうなっていくのだろうかという気持ちになっていることもある。

会 長 いじめている方も、いじめているという認識がなく、遊んでいるみたいな感じで、実はそれがいじめであると気づくことが大切。

委 員 いじめは今も昔も深刻な問題。いじめは様々な形に変わり増える一方で、なかなか無くならないことが本当に残念。正直思いたくはないが、先ほどから意見が出ているように、いじめは無くならないと思うこともある。人間一人一人考え方が違うように、多くの人間同士が毎日いろんなところで関わっている中で、なかなか無くならないのではと思っている。だからこそ、その都度問題と向き合い、解決策に導くことが大切ではないのかと思う。また、見ていられないような緊急性を要するいじめもある。そのようなことを少しでも未然に防ぐことができるよう、日々考えて行動する必要があると思う。

3年前の話だが、徳島県PTA連合会で、毎年発行している広報誌の企画で、いじめ問題を取り上げたことがあり、当時のいじめ問題対策室の室長さんにいろいろな話を伺った。その時、特に印象に残ったことがある。それは、いじめ問題は「傾聴、受容、共感」が大切であるということ。とにかく話を聞いてあげることが大事で、静かに問題を受け止めてあげて、共感することが大事であるということを教えていただいた。

しかし、ある程度の年齢の子どもに関しては難しい面もあるが、この3つのキーワードを基に解決に導くことができたらと考えている。

他にも、最後に解決するのは子ども自身であるとお聞きしました。その言葉を胸に、この世界から一人でも苦しんでいる人がいなくなるように取り組んでいきたい。

会 長 子ども自身の解決の力を育てることが大切。

委員 皆さんの御意見を聞きながら、いじめは本当に難しいと思う。資料を見ていて、いじめに関しても皆さんの話を聞きながらそう思う。成長段階のことも考えなければならないとも感じた。

例えば、幼小中高の子どもたちのいじめについて話をするとかみ合わない。なぜかという、いじめの態様が成長段階によって違うということ。その本質は本当に難しい。そこを徹底的に話し合わないといけない。委員さんがほとんど学校関係者なので、もちろん子どもたちも生活の中心が学校になるので、こうなるけれど、いじめは学校だけなのか、家庭はどうなのか、いろんな視点があって然るべきと思う。誰かを悪者に行っていることもあるので、一度立ち止まり、会の在り方や委員の在り方を話すのもいいのかなと思うが、根本的にはなかなか難しい。普遍的に人間の良心、自己肯定感を育むことが大切。

好きな情報だけを目にするのでいいのか、いじめに対して今一度、年齢、分析の方法を見直すことが必要かもしれない。いじめは悪いと思っている人がほとんどで、その働きかけを進めていくことが必要。

会長 幼小中高大と大きく発達段階が違い、何をいじめと捉えているのかも違う。もう一度、多様なデータを分析すれば、違うところが見えてくると思う。

委員 小中高生時代の経験を通じて思うことは、いじめが悪いと分かっているけど、いじめが自分たちの周囲にある認識が乏しい。ニュース等で取り上げられていることが身近にあると思えていない。

アンケートをする時に自分の学校生活を振り返り考えるから、アンケートにおいて、いじめの発見が増加していると思う。

テレビやネットで誰かのことを悪く言っているのを笑って見ている世代では、友達が誰かを悪く言っているというのは、人を傷つけることであるのか、面白くしたいから言っているのか、そういった判別が難しい。あの時テレビで言っていたが、今起きていることをいじめと報告していいかどうか不安があったり、事を大きくして友達の関係性を崩してしまったらどうしようと先生に直接訴えづらい面がある。

私は小学校の頃からスマートフォンを持っており、クラスの半分がスマホを持っていた。友達と人間関係ができていないのに、ネット上でグループを作ってしまう、適正な使い方を学んでいないのにグループが完成してしまう。人と人とのつながりを強化していかないと、ネットだけで人間関係が簡潔してしまっている、グループに入っていない人の悪口を言ってしまう。

会長 コロナ禍で入学してきた大学生はずっとマスクをしており、人間関係が作りづらいのではないかと。時間が経てば徐々に関係性も育まれていくのだ

が、半分の人間の顔は分かっていない状態かも知れない。子どものつながり、絆が深まるような取組が必要ではないか。

委員 コロナ禍でマスクを外した友達の顔をあまり見たことがない。

委員 私たちは、「昔はこうだった」と言えるが、今、学校に通っている児童生徒はこの3年間の状態が全て。このような状況で生活を送らざるを得なかった子どもたちに、どのような支援ができるかが大切。

会長 コロナ禍でも人間関係を密にするような方法があれば良いのではないか。

委員 高校生でスマホを持っていない生徒はいない。目の前の友達とゲーム上で話をする現状があり、本校では昨年度から、電源を切ってカバンの中に入れて使用しないというルールができ、学校で使用できるのは始業前と放課後だけである。

SNS上での中傷は私たちの分からないところで問題が進んでいることもあり、分かったときには重大なことになっているというのが一番怖い。身近な人間との関係について考えなければならない。

コロナ禍で保護者と接する機会が三者面談だけで、ほとんど電話のみで連携も取りづらいつと感じる。また、様々な学校行事がなくなり、子どもたちもストレスがたまっている。仕事も忙しく、教員に余裕がない。生徒にしてあげたいことはあるが、自分の身体に限界を感じてしまう時がある。

本当に大切な人と人との関わりを伝えていきたい。

委員 みなさんの話をお伺いして本当に勉強になる。地域の話といえれば少し大きいかもしれないが、虐待などの対応、生徒の特性からの問題行動も増えている。共働きで核家族の家庭の増加で、親も我が子と過ごす時間が減少している。子どもたちとどのくらい時間が過ごせているのか。同じ部屋でいてもそれぞれスマホで違うものを見ている現状がある。

家族と一緒に過ごす時間があると、いつもと違うと変化に気付くことがあり、観察をしてみることが大切だが、それも難しい世の中になり、人と人の関わりを力関係でかたを付けようとする大人の姿を子どもは見ている。

会長 家庭での様子も気にかかっている。

審議会として何ができるのか。今年度どのようなことができるのか。昨年度は「段階別 不登校対応ハンドブック」改訂版を作成し、県内の全公立学校に配布し総合教育センターのホームページにも掲載した。

一昨年度は、いじめの「重大事態対応チェックシート」を作成した。今

年度どのようなものを作成するか、御意見はありますか。

いじめに関する認知について、発達段階の違い、「つながり」とか、「こんなことをしたらつながりが作れますよ」というような方法が掲載されているようなものはどうか。絆がうまくできていないので、「マスクの下を想像してみよう」とか。家族の中で子どもが何に興味をもっているか知る機会になるようなものはどうか。

委員 全国の学校でアンケートをしていると思うが、保護者向けのアンケートはされているか。子どもの回答と親の回答を照らし合わせたものを県教育委員会に上げているのか。

事務局 各学校で年度末等に一年間の学校の評価という意味で学校行事等についてのアンケートというようなケースはあると思うが、全ての学校がどのような状況かは把握していない。

委員 学校評価は回答している。いじめに特化したもので、学校だけでなく、家庭や先生方とどうか。ということも含めてどのように把握されて、どのように解決されているのかと思っている。

委員 いじめの調査でしっかり上がってくるのではないと考えている。いじめの認知の報告では数が多く見えるが、これしか今は術がなく、無記名で書いたり、その場で書くので書きづらかったりという現状があり、学校では工夫をして、家庭に持ち帰り実施しているところもある。さらに工夫をしていく必要がある。いじめは探さないと見つからない。アンケート調査の工夫はさらに必要と感じる。

委員 事務局に質問がある。審議会は年間3回しかない。事務局の案はないのか。委員それぞれに思う課題はあるが、それをどうするかということにはならないと思う。方向性を示していただいて、「これでどうなんだ」という、そこで「こうじゃない」ということで、事務局が「こういうことをやりたい」。今年は「こうだよ」という、進行案を作っていただき、検討部会で内容を深めていきたい。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。昨年度、「段階別 不登校対応ハンドブック」を作成した。今回は各委員の御意見をお伺いした後、御提案させていただきたいと思っている。

委員 次の審議会はいつか。

事務局 9月を予定している。

委員　　こういうことをやりたいという中で、いろんな素案があって意見が出ると思う。みなさんにもあると思う。時代背景と様々な時代の進展の中で、「今これだ」ということが事務局でお分かりになると思う。それを出していただき、議論を深めたい。

委員　　貴重なご意見だと思う。今日一番最初に発言して戸惑ったが、これまでは審議会で各委員が意見を出し、それを踏まえて方向性を絞っていた。振り返れば、誰に対してのメッセージを送るのか。例えば、子どもたち、先生、保護者に対するメッセージが考えられる。

昨年度は忙しい先生の助けになるものでなくてはならないということで、成果物が完成していたのではないか。不登校の冊子も前年度の会長さんや、検討部会の方々の気持ちのこもったメッセージが入っていたと思う。私は今年度、会長が話された「絆のつながりかた」。子どもたちや保護者に対してというのもあると思う。誰に対するメッセージを送るのかということを考えてもいいのかと思う。

委員　　貴重な時間の中で、会長から案はないですかと言われ、発言させていただいて良かったと思う。会長からお話があったように、人とのつながりを大切にしようということが大事で、よく知らない人を攻撃してしまうということがあるので、相手のことを知るとか、自分自身のことを知るとか、家族のことを知るという質問だったり、いじめを未然に防ぐものが必要だと感じた。

会長　　ありがとうございます。案について事務局お願いします。

事務局　　成果物については、各委員の御意見を事務局で集約し、方向性を出したいと思う。

委員　　これからは、資料を送る際に、事務局から案を提示していただきたい。また、それ以外の案についてもお考えくださいと、各委員に事前にお伝えすることで活発な意見交換ができる。

いじめについてのアンケートはなく、評価についてのアンケートはあるが、いじめの問題を書く欄はない。学校と情報共有できるアンケートが大事だと思う。

会長　　今後は、事務局から成果物についての案を提示していただけたらと思う。今回は各委員から出た意見で、「つながり」の話や「地域でいじめを防ぐためには」、「いじめにいたるまでにどんな人間関係があればいいのか」

いじめの未然防止，アンケート，子どもたち以外でのアンケート等について，事務局でお考えいただけたらと思う。時間を過ぎてしまった。司会を事務局にお返しする。